

塩竈市立病院事業会計

I 予算の執行状況

1 収益的収入及び支出

1) 収入

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第24条第3項の規定による支出額に係る財源充当額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	執 行 率
病院事業収益	3,061,852,000	0	3,149,737,702	87,885,702	102.87
医 業 収 益	2,778,660,000	0	2,665,902,196	△112,757,804	95.94
医 業 外 収 益	282,192,000	0	483,563,505	201,371,505	171.35
特 別 利 益	1,000,000	0	272,001	△727,999	27.20

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支出

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	決 算 額	翌 年 越 度 額	不 用 額	執 行 率
病院事業費用	3,058,196,000	2,947,412,377	0	110,783,623	96.37
医 業 費 用	3,007,375,000	2,899,880,327	0	107,494,673	96.42
医 業 外 費 用	42,980,000	39,691,949	0	3,288,051	92.34
特 別 損 失	7,841,000	7,840,101	0	899	99.98

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

① 収益的収入

予算現額 3,061,852,000 円に対し、決算額 3,149,737,702 円で、執行率 102.87%となっている。

② 収益的支出

予算現額 3,058,196,000 円に対し、決算額 2,947,412,377 円で、執行率 96.37%となり、110,783,623 円の不用額が生じ決算されている。

主な不用額をみると給与費で 67,755,477 円、材料費で 30,790,580 円などである。

2 資本的収入及び支出

1) 収入

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の繰越額 に係る財源充当額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	執 行 率
資本的収入	90,358,000	0	90,358,000	0	100.00
他会計補助金	39,758,000	0	39,758,000	0	100.00
企業債	50,600,000	0	50,600,000	0	100.00

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支出

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の規定 による繰越額	決 算 額	翌 年 度 繰 越 額	不 用 額	執 行 率
資本的支出	125,083,000	0	125,080,884	0	2,116	99.99
建設改良費	55,000,000	0	54,998,220	0	1,780	99.99
企業債償還金	70,083,000	0	70,082,664	0	336	99.99

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

① 資本的収入

予算現額 90,358,000 円に対し、決算額 90,358,000 円で、執行率 100.00%となっている。

② 資本的支出

予算現額 125,083,000 円に対し、決算額 125,080,884 円で、執行率 99.99%となっている。

建設改良費は、施設購入費として 23,350,120 円、施設改良費として 31,648,100 円である。

施設購入費の内訳は、電動ベッド等購入（契約額 6,092,000 円）、内視鏡スコープ（下部）購入（契約額 4,279,000 円）、腹腔鏡手術用スコープ購入（契約額 3,921,500 円）等、施設改良費の内訳は、GHP（H-4・H-8 系統）改修工事（契約額 17,050,000 円）、令和 4 年度 塩竈市立病院 3 階病棟浴室他改修工事（契約額 14,598,100 円）である。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 34,722,884 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 4,999,838 円、過年度損益勘定留保資金 29,723,046 円をもって補っている。

II 経営成績

平成30年度から令和4年度までの経営成績は、次表のとおりで、消費税を除いた本年度の収益的収支差引額は200,831,868円の純利益を生じて決算された。

なお、以下の計数については、消費税を除いたものである。

1 総収益と総費用

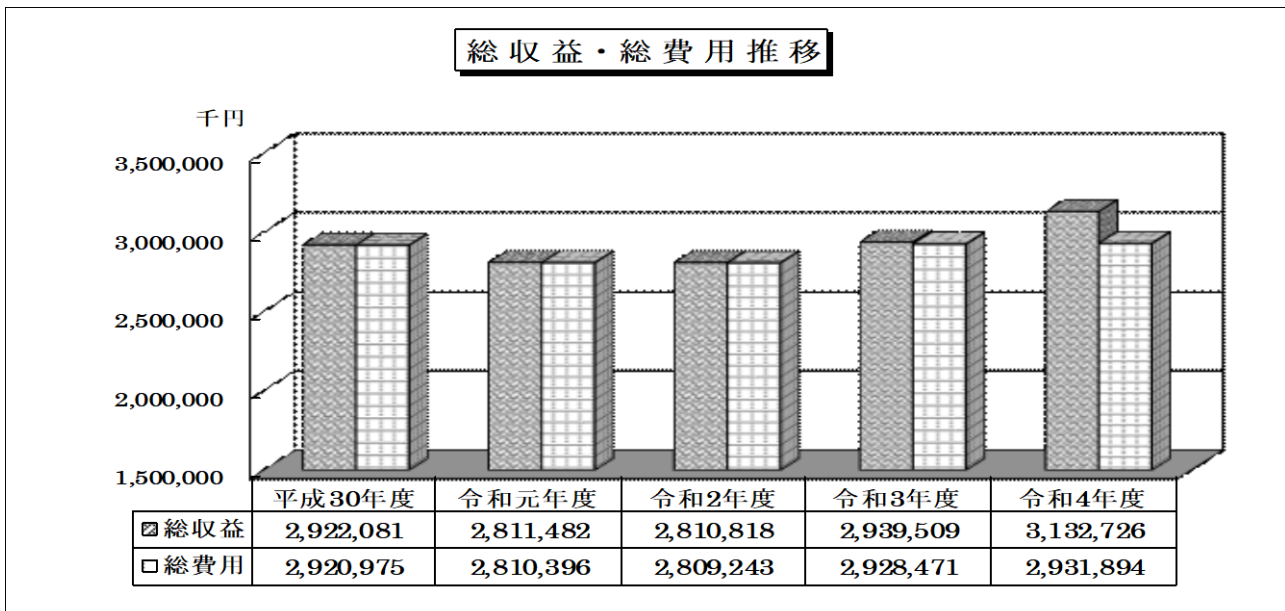
総収益・総費用すう勢比率表

(単位:円、%)

区分 年度	総 収 益		総 費 用		収支差引額 (A) - (B)	収支比率 (A) / (B)
	金 額 (A)	すう勢比率	金 額 (B)	すう勢比率		
平成30年度	2,922,080,739	100.0	2,920,975,001	100.0	1,105,738	100.0
令和元年度	2,811,482,096	96.2	2,810,395,932	96.2	1,086,164	100.0
令和2年度	2,810,817,513	96.2	2,809,243,347	96.2	1,574,166	100.1
令和3年度	2,939,508,653	100.6	2,928,470,664	100.3	11,037,989	100.4
令和4年度	3,132,725,691	107.2	2,931,893,823	100.4	200,831,868	106.8

(注) すう勢比率は平成30年度を基準年度とする。

また、平成30年度以降の総収益、総費用の推移を図で表すと以下のとおりである。



本年度の総収支の状況は、平成30年度を比率100としたすう勢比率で見ると、総収益は前年度と比べ6.6ポイント上回った107.2%、総費用は0.1ポイント上回った100.4%となった。

また、収支比率は前年度と比べ6.4ポイント上回った106.8%となり、収支差引では前年度より189,793,879円増の200,831,868円の純利益となった。

2 収 益

次に収益の内容を前年度と比較してみると次表のとおりである。

収 益 比 較 表

(単位:円、%)

年 度 区 分		令 和 4 年 度		令 和 3 年 度		対 前 年 度 比 較	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	増 減 額	増 減 率
医 業 収 益	入 院 収 益	1,540,868,593	49.2	1,559,822,263	53.1	△18,953,670	△1.2
	外 来 収 益	752,312,923	24.0	707,150,955	24.1	45,161,968	6.4
	そ の 他 医 業 収 益	357,184,858	11.4	353,584,852	12.0	3,600,006	1.0
	計	2,650,366,374	84.6	2,620,558,070	89.1	29,808,304	1.1
医 業 外 収 益	他 会 計 負 担 金	146,207,000	4.7	144,564,000	4.9	1,643,000	1.1
	他 会 計 補 助 金	68,472,000	2.2	70,054,000	2.4	△1,582,000	△2.3
	患 者 外 給 食 収 益	651,422	0.0	662,824	0.0	△11,402	△1.7
	そ の 他 医 業 外 収 益	16,485,040	0.5	15,620,381	0.5	864,659	5.5
	県 補 助 金	164,749,000	5.3	13,351,000	0.5	151,398,000	1,134.0
	長 期 前 受 金 戻 入	85,543,154	2.7	66,382,577	2.3	19,160,577	28.9
	国 庫 補 助 金	0	0.0	8,300,000	0.3	△8,300,000	皆減
	計	482,107,616	15.4	318,934,782	10.8	163,172,834	51.2
特 別 利 益	過 年 度 損 益 修 正 益	251,701	0.0	15,801	0.0	235,900	1,492.9
	計	251,701	0.0	15,801	0.0	235,900	1,492.9
合 計		3,132,725,691	100.0	2,939,508,653	100.0	193,217,038	6.6

収益の内容を前年度と比較してみると、収益合計で193,217,038円の増収となっている。

これは、医業収益で29,808,304円(1.1%)の増、医業外収益で新型コロナウイルス感染症対策関連の県補助金の増などにより163,172,834円(51.2%)と大幅に増収となったためである。

入院及び外来患者の年延患者数の推移をみると次表のとおりである。

年 延 患 者 数 の 推 移

(単位:人、%)

区 分	令和4年度	令和3年度	対前年度比率	令和2年度	令和元年度	平成30年度
年延入院患者数	42,409	42,900	98.9	41,891	44,721	47,640
年延外来患者数	58,797	58,169	101.1	55,144	59,016	58,551
合 計	101,206	101,069	100.1	97,035	103,737	106,191

本年度の年延入院患者数は42,409人、一日平均116.2人で、前年度から新型コロナウイルス感染症患者の院内発生などにより延患者数491人、一日平均1.3人減少した。年延外来患者数は58,797人、一日平均242.0人で、前年度から発熱患者の受け入れなどにより延患者数628人、一日平均1.6人の増加となっている。

次に患者一人一日当りの診療収入など本市と年鑑指標をみると次表のとおりである。

区 分	令和4年度	令和3年度	対前年度比較増減	令和3年度年鑑指標
患者一人一日当り診療収入 (円)	22,659	22,430	229	27,834
〃 入院収入 (円)	36,334	36,359	△25	51,917
〃 外来収入 (円)	12,795	12,157	638	14,604
外来入院患者比率 (%)	138.6	135.6	3.0	182.0
病床利用率 (%)	72.2	73.0	△0.8	68.0

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の令和3年度全国平均値である。

本年度の患者一人一日当りの入院と外来の診療収入を前年度と比較すると、入院収入は36,334円で25円(0.1%)下回っているが、外来収入は12,795円で638円(5.2%)上回っている。また、年鑑指標と比較すると、入院収入で15,583円(30.0%)、外来収入でも1,809円(12.4%)下回っている。

外来入院患者比率(年延外来患者数÷年延入院患者数)をみると、前年度に比べ3.0ポイント上回っている。(審査資料別表9参照)

3 費用

費用比較表

(単位:円、%)

年度 区分	令和4年度		令和3年度		対前年度比較	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
医業費用	2,839,835,128	96.9	2,824,849,439	96.5	14,985,689	0.5
医業外費用	84,219,926	2.9	101,481,238	3.5	△17,261,312	△17.0
特別損失	7,838,769	0.3	2,139,987	0.1	5,698,782	266.3
合計	2,931,893,823	100.0	2,928,470,664	100.0	3,423,159	0.1

費用を前年度と比較してみると、医業外費用で17,261,312円(17.0%)減少したが、医業費用で14,985,689円(0.5%)、特別損失で5,698,782円(266.3%)増加したことにより、費用合計で3,423,159円(0.1%)増加している。また、医業費用の増加については、減価償却費や光熱水費で、特別損失については、過年度損益修正損の増加によるものである。(審査資料別表10・11参照)

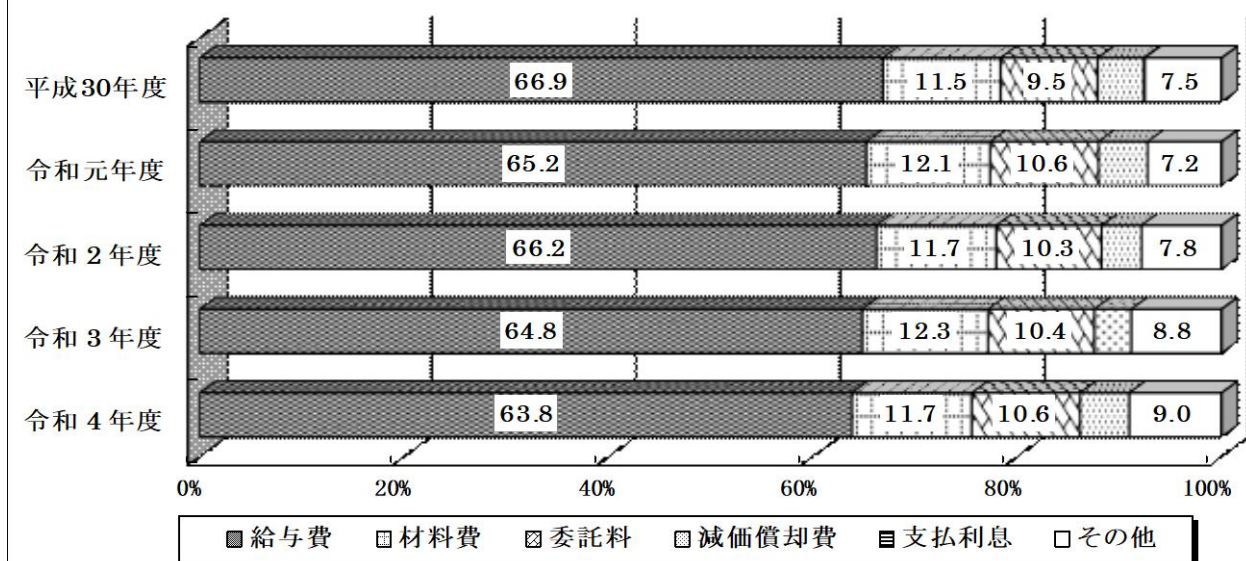
これを構成別で比較してみると次表のとおりである。

費用構成別比較表

(単位:円、%)

年度 区分	令和4年度		令和3年度		対前年度比較		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
給与費	1,871,809,820	63.8	1,898,459,814	64.8	△26,649,994	△1.4	
材料費	342,720,584	11.7	361,312,133	12.3	△18,591,549	△5.1	
委託料	310,010,902	10.6	305,980,733	10.4	4,030,169	1.3	
減価償却費	141,474,477	4.8	104,490,222	3.6	36,984,255	35.4	
支払利息	1,248,534	0.0	1,106,011	0.0	142,523	12.9	
その他	賃借料	23,319,820	0.8	22,478,010	0.8	841,810	3.7
	光熱水費	72,619,430	2.5	53,459,884	1.8	19,159,546	35.8
	修繕費・工事費	21,348,014	0.7	15,880,573	0.5	5,467,441	34.4
	その他	147,342,242	5.0	165,303,284	5.6	△17,961,042	△10.9
	計	264,629,506	9.0	257,121,751	8.8	7,507,755	2.9
合計	2,931,893,823	100.0	2,928,470,664	100.0	3,423,159	0.1	

費用構成別比較表



構成別で前年度より増加した主なものは、減価償却費で 36,984,255 円 (35.4%)、光熱水費で 19,159,546 円 (35.8%) 等である。一方、減少した主なものは、給与費で 26,649,994 円 (1.4%)、材料費で 18,591,549 円 (5.1%) 等である。

4 経営状況

病院事業の経済性を示す一つの指標として、総資本利益率等を求めれば次表のとおりである。

区分	令和4年度	令和3年度	令和3年度 年鑑指標	算式
総資本利益率 (%)	10.83	0.72	4.82	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{年平均総資本}} \times 100$
総資本回転率 (回)	1.38	1.44	0.57	$\frac{\text{医業収益}}{\text{年平均総資本}}$
医業収益利益率 (%)	7.86	0.50	8.47	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{医業収益}} \times 100$

(注) ・総資本＝負債資本合計

・年平均総資本＝(期首総資本＋期末総資本)÷2

・総資本利益率(経營業績、収益性を示し、比率の高いほど投下資本が効率的に運用されていることを表す)

・総資本回転率(高いほど収益をあげるため総資本を効率的に活用したことを表す)

・医業収益利益率(医業収益に占める経常利益の割合を示す)

総資本利益率は、前年度より 10.11 ポイント上回っている。これを総資本回転率と医業収益利益率とに分解してみると、総資本回転率は 0.06 ポイント下回ったが、医業収益利益率で 7.36 ポイント上回ったことに起因している。これは当年度経常利益が 195,256,761 円 (1,483.5%) 増加したことによるものである。

次に経営状態の良否を判断するため、収支比率を求めれば次表のとおりである。

区 分	令和4年度	令和3年度	令和3年度 年鑑指標	算 式
医業収支比率 (%)	93.33	92.77	87.95	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$
経常収支比率 (%)	107.13	100.45	106.48	$\frac{\text{医業収益} + \text{医業外収益}}{\text{医業費用} + \text{医業外費用}} \times 100$
総収支比率 (%)	106.85	100.38	106.57	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の令和3年度全国平均値である。
比率はいずれも高いほど経営状態は良好であることを表す。

総収支比率（総体的経営活動の能率を示す）では、年鑑指標と比較して、0.28ポイント上回っている。これは、医業収支比率（医業活動の能率を示す）で5.38ポイント、経常収支比率（通常の病院活動の能率を示す）で0.65ポイント上回っていることによるものである。

Ⅲ 財 政 状 態

令和4年度末の財政状態は、審査資料別表12に示すとおりである。

また、資金の変動状況を活動区分別に表示するキャッシュ・フロー計算書は次表のとおりである。

キャッシュ・フロー計算書比較表

(単位:円)

区 分	令和4年度	令和3年度	対前年度比較増減
1 業務活動によるキャッシュ・フロー	113,446,266	85,566,545	27,879,721
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	△49,998,382	△263,333,400	213,335,018
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	△119,724,664	220,488,510	△340,213,174
資金増加額(1+2+3)	△56,276,780	42,721,655	△98,998,435
資金期首残高	88,152,195	45,430,540	42,721,655
資金期末残高	31,875,415	88,152,195	△56,276,780

(注) 審査資料別表13参照

本年度の資金期末残高は、前年度末より56,276,780円減少し31,875,415円となっている。

その内容を区分ごとにみると、業務活動によるキャッシュは、当年度純利益などが増加したことにより、前年度より27,879,721円増加し113,446,266円となっている。

投資活動によるキャッシュは、前年度より213,335,018円増加し△49,998,382円となっている。これは、建設改良費の施設改修工事及び器械備品購入等に伴う支出の減によるものである。

財務活動によるキャッシュは、一時借入金及び建設改良等の財源に充てるための企業債による収入の減少などにより、前年度より340,213,174円減少し、△119,724,664円となっている。

次に、財政状態の良否を示す一つの指標として、財務比率を求めれば次表のとおりである。

財 務 比 率

(単位:%)

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和3年度 年鑑指標	算 式
流 動 比 率	136.30	102.96	94.26	237.25	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
自 己 資 本 構 成 比 率	49.73	41.57	47.30	38.08	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率	89.37	98.99	102.29	79.06	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$

- (注) ・流動比率 (短期支払能力を示す) ・自己資本構成比率 (経営の安全性を示す)
 ・固定資産対長期資本比率 (固定資産の調達状態を示す)

令和4年度の決算を前年度と比較すると、流動比率で33.34ポイント、自己資本構成比率で8.16ポイント、固定資産対長期資本比率で9.62ポイントそれぞれ改善している。

IV 病院改革プラン数値目標との比較

「塩竈市立病院新改革プラン」の計画期間は平成28年度から平成32年度（令和2年度）までの5年間であったが、新型コロナウイルス感染症まん延の影響により期間を延長し、令和2年度の数値を基に令和4年度の数値目標を設定している。財務に係る数値を中心にした平成30年度からの決算数値の推移と数値目標との比較は、次表に示すとおりである。

区 分	年 度		令和4年度	令和3年度	平成32年度 (令和2年度)	平成31年度 (令和元年度)	平成30年度
経常収支比率	(%)	決算数値	107.1	100.4	100.2	100.3	100.1
		数値目標	100.4	100.4	100.4	100.0	100.0
		差 額	6.7	0.0	△ 0.2	0.3	0.1
医業収支比率	(%)	決算数値	93.3	92.8	89.4	90.3	83.7
		数値目標	92.8	92.8	92.8	92.2	92.3
		差 額	0.5	0.0	△ 3.4	△ 1.9	△ 8.6
職員給与費対 医業収益比率 (会計年度任用職員を除く)	(%)	決算数値	53.5	55.3	57.1	55.2	61.7
		数値目標	53.6	53.6	53.6	53.8	54.0
		差 額	△ 0.1	1.7	3.5	1.4	7.7
病床利用率	(%)	決算数値	72.2	73.0	71.3	75.9	81.1
		数値目標	80.7	80.7	93.9	93.9	93.9
		差 額	△ 8.5	△ 7.7	△ 22.6	△ 18.0	△ 12.8
1日平均入院患者数	(人)	決算数値	116.2	117.5	114.8	122.2	130.5
		数値目標	130.0	130.0	151.3	151.3	151.3
		差 額	△ 13.8	△ 12.5	△ 36.5	△ 29.1	△ 20.8
1日平均外来患者数	(人)	決算数値	242.0	240.4	226.9	243.9	240.0
		数値目標	260.1	260.1	276.3	276.3	276.3
		差 額	△ 18.1	△ 19.7	△ 49.4	△ 32.4	△ 36.3
入院患者1人1日当り 診療単価	(円)	決算数値	36,334	36,359	35,735	33,591	30,144
		数値目標	35,160	35,029	29,105	29,105	29,105
		差 額	1,174	1,330	6,630	4,486	1,039
外来患者1人1日当り 診療単価	(円)	決算数値	12,795	12,157	10,985	10,694	10,694
		数値目標	10,800	10,800	10,800	10,800	10,800
		差 額	1,995	1,357	185	△ 106	△ 106
救急患者数	(件)	決算数値	963	922	656	722	784
		数値目標	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
		差 額	△ 37	△ 78	△ 344	△ 278	△ 216
経常損益	(千円)	決算数値	208,419	13,162	4,582	7,801	3,220
		数値目標	11,960	11,960	11,960	464	656
		差 額	196,459	1,202	△ 7,378	7,337	2,564
純利益	(千円)	決算数値	200,832	11,038	1,574	1,086	1,106
		数値目標	11,960	11,960	11,960	464	656
		差 額	188,872	△ 922	△ 10,386	622	450
一般会計からの繰入金	(千円)	決算数値	456,263	456,287	494,674	475,280	679,005
		数値目標	433,427	433,427	433,427	448,704	443,530
		差 額	22,836	22,860	61,247	26,576	235,475
不良債務比率	(%)	決算数値	-	-	-	-	-
		数値目標	-	-	-	-	-
		差 額	-	-	-	-	-

塩竈市立病院改革プランの数値目標を決算数値と比較すると、経常収支比率、医業収支比率、入院患者1人1日当り診療単価、外来患者1人1日当たり診療単価、経常損益及び純利益で目標値を達成した。なお、令和5年度に作成の新たな改革プランに基づき、新目標達成に向け努力して欲しい。

V むすび

市立病院事業会計決算の概要は以上のとおりである。

本年度の患者数を前年度と比較すると、入院患者数は新型コロナウイルス感染症患者の院内発生などにより 491 人(1.1%)減の 42,409 人、外来患者数は発熱患者の受け入れなどにより 628 人(1.1%)増の 58,797 人となり、病床利用率は前年度の 73.0%から 0.8 ポイント減の 72.2%となっている。

収益的収支を前年度と比較すると、総収入で 193,217,038 円(6.6%)増の 3,132,725,691 円、総支出では 3,423,159 円(0.1%)増の 2,931,893,823 円で収支差引 200,831,868 円の純利益で決算され、前年度より 189,793,879 円の大幅な増益となっている。

総収益の増の内訳は、医業収益の入院収益 18,953,670 円(1.2%)、医業外収益の国庫補助金 8,300,000 円(皆減)などが減となったが、医業外収益の新型コロナウイルス感染症対策県補助金 151,398,000 円(1,134.0%)、長期前受金戻入 19,160,577 円(28.9%)、医業収益の外来収益 45,161,968 円(6.4%)などが増となったことによるものである。

総費用の増の内訳は、医業費用、給与費の手当等 40,051,493 円(7.9%)、薬品費 24,510,585 円(10.3%)、医業外費用のその他雑損失 17,357,040 円(17.5%)などで減となったが、器械備品減価償却費 37,060,650 円(70.5%)、光熱水等 19,159,546 円(35.8%)などが増になったことによるものである。

資本的収支を前年度と比較すると、総収入では 236,682,000 円(72.4%)減の 90,358,000 円、総支出では 231,109,346 円(64.9%)減の 125,080,884 円となっており、収支差引の不足額 34,722,884 円は当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、過年度損益勘定留保資金などで補てんし決算されている。総収入減の主な内訳は、企業債によるものであり、総支出減の主な内訳は昨年実施の病院情報システム(電子カルテ)構築の終了による建設改良費の減によるものである。

本年度の市立病院の決算は、新型コロナウイルス感染症患者の院内感染発生にもかかわらず、黒字の大幅な増となる決算となった。改革プランの数値目標達成項目に対する努力はもちろん、発熱患者を積極的に受け入れるなど、経営努力の結果と考えている。

今後も、老朽化した施設の整備への対応、各医療機器の更新費用の増加など厳しい経営状況が続くと予想される。そのような中でも、地域に必要とされる医療を継続していくため、患者数の増加など病院経営の健全化、安定運営に向けて努力されたい。